

科学者による科学告発：逆転する「科学的」と「非科学的」

Greatchain

2019/10/30

このタイトルはどこかで見たような・・・と言われるかもしれない。そう、「アメリカ大統領によるアメリカ告発」である。これは驚くべきことである。ロシアによるアメリカ告発とか、宗教者による科学告発なら、だれも驚かない。もう一つ言えば、カトリック僧によるカトリック告発であろう。これもイスラム教徒による告発なら驚かない。こういうことが並行して同時に起こるということは、世の中が大きな変わり目を迎えているということである。そして、そこに共通しているのは、サタンというものである。ある宗教家の言ったように、人々は「サタン圏」に取り込まれながら、その自覚がなくなっている。いま、その者たちが目覚める時が来たということである。これは勝敗の見えている争いだが、そこには血みどろの争いが必然的に伴う。曲がった背骨を矯正するときは痛いだろう。これは誰にでもわかる理屈である。そして、サタン側と神側の弁別に苦労する、などという人はいないだろう。人間の男女の別をなくそうなどという思想が、曲がっていることは誰にでもわかる。

自浄とか革命といった運動が、内部から起こらなければ、人間も人間社会は進歩しない。科学の分野では、いま「科学の蜂起」Science Uprising という名のもとに、進化という概念を中心にして、いま起こっている。これは一度説明すれば、人はわかってくれるはずだ、というものではない。理屈や証明や説明力の問題でなく、それを繰り返すこと、多くの人々が協力して繰り返すこと、またそのための作戦を要する。人間は、情けないことに、安全のために徒党を組んで動く動物である。学者といえども変わりはない。歴史上最悪の犯罪者というべき、ジェフリー・エプスティーンに、科学者共同体がごっそり牛耳られていたという先日紹介した記事は、よい教訓である。一昨日ここで紹介した、スティーヴン・マイヤーの「進化：バクテリアからベートーベンまで」という5分間ビデオについて言えば、当事者たちは、ID運動が始まって十数年もたったのに、まだ、こんな初歩的なことを繰り返さねばならないとは思わなかったであろう。学者の頭であれば、瞬時にこんなことは理解し、今頃は世界に完全に浸透していたはずだ。しかしそうはならず、反対派は、いやらしいデマや、中傷や、故意の誤解戦術を取った。それはトランプ大統領に対する中傷・誤解・弾劾作戦と、非常によく似ている。(政治家がそんな卑劣なことをするとは、誰も思わなかった。)

しかし、この5分間ビデオは、百万という視聴者がすべて有効ではないとしても、かなりの効き目はあったであろう。科学者の内部告発には耳を傾けたはずである。我々はおしなべて、「科学的」とか「科学者」という言葉に弱い。今はそうでもなくなったが、ある新聞などは、ノーベル賞学者をほとんど神格化したことがある。その目的はおそらく、無神論科学によって神を追い出すほどの凄い頭をもった人を、宣伝することであった。そのころ、同じ新聞の正月号に、世界の指導者として、キッシンジャーの写真が飾られたが、これも似た動機によるだろう。10年ほど前、アメリカのある進化生物学者が、メディアから「ついに人間の起源を突き止めた」とおだてられたが、「私はそんな大げさなものを発見していない」と言って、切り捨てたことがあった。メディアと学者が共謀して、民衆を騙すということはだんだんなくなったと思うが、無神論科学者の権威付けは今も変わっていない。

この5分間ビデオを言おうとしていることは、これまでの常識を逆にして、有神論科学者が「科学的」で、無神論科学者は「非科学的」・インチキだということである。しかし、そういう結論をわざと言わないように、能う限り簡略にし、視聴者に考えさせるようにしたことは、効果的な巧妙な方法だった。その上、気の毒なことに、リチャード・ドーキンズを笑いものにすることで面白がらせた。マイヤーは、ドーキンズの有名な言葉、「ダーウィン進化論を信じないと言う者は、無知で、愚鈍、あるいは狂人なのだ」を、初めと終わりに2度使っているが、本当はもう一つ言葉がついている：—「…さらに言わせてもらえば、その人は悪人 (wicked) といってもよい」。ご存知の方もいるだろう。マイヤーは、そこまでは遠慮したのだろう。しかし、本当はここが肝要である。なぜか？ ドーキンズは全面的に間違っているだけでなく、明らかに「悪人」であり、サタンの徒である。学者としても人間としても、神に対する反逆者である。

ダーウィン進化論とは何か？ それは単なる生命解釈の学説ではない。それは人間が、善を選ぶか、悪を選ぶかを迫られたときに、悪を選ぶ者の学説である。神を捨ててサタンを選ぶことである。しかしここで神というのは、無神論 (atheism) に対して、有神論 (theism) ということである。キリスト教とか仏教といった、宗教のことではない。それは科学が完全なものとなるように、科学に組み込まれた神 (超越者、高次元存在) のことである。IDではこれを、インテリジェンスとかデザイン (デザイナー) と呼んで、誤解されないように宗教とは分けている。そういう神の存在を、科学者として発見または立証したのは、マイヤーたち数名の「ディスカバリー研究所」の人たちだった (今はもっと増えている)。

この新しい科学への転換が、なぜ、画期的に重要なのか？ それは、今まで別物とされてきた、善悪や道德の観念が、そこに取り込まれるからである。物理的に見たこの宇宙は、最初から、人間や人間のための環境を作るように、絶妙にデザインされており、それは沢山ある物理常数の1つを、ほんのわずかに「いじった」だけでも、このような宇宙が出現

しないことからわかる。ということは、人間とは神に創られ、かつ愛された、神の創造の目的そのものだったということである。だとすれば、我々は、ただ単に生物学的に生きられるように創られたのではなく、倫理道徳をも具えられているはずである。(動物と違って)自由意志を与えられ、神の意志が何であるかを推測できるように創られている。したがって、善悪も道徳も、我々の果たすべき責任も、有神論科学では、エネルギーや重力と同じ、科学概念である。そしてこれが正しい科学であるとすれば、あの(文字通り)頭打ちになった無神論(唯物論)科学の、自縄自縛の枠を突破して、それほどこまでも進歩するはずである。無限の希望を与えるはずである。